

No.262

2022年
7月号

さくら

図書館だより

(編集・発行)

宿毛市立坂本図書館
〒788-0001

宿毛市中央二丁目7番14号

☎ 0880-63-2654

FAX 0880-63-0155

展示のご案内

展示期間 7月28日(木)まで

★メイン展示

「梅雨があけたら夏本番！」

今年の梅雨はあっという間に過ぎていきましたね。毎日暑い日が続きますので、水分をこまめに補給し、熱中症にならないように気をつけましょう。夏の図書館は涼しいので、読書を楽しんでみてはいかがでしょうか。

- ・七夕まつり
- ・読む水族館
- ・野菜を読もう、食べよう、育てようという3つのコーナーを設けました。



●メイン展示図書(抜粋)

- 「七月七日はまほうの夜」「たなばたのおねがい」
- 「ハマスイのゆかいないきもの」「しんかいぎょ！」
- 「びっくり水族館」「元気な子どもの野菜レシピ」
- 「プランターで有機栽培」「こまったさんのサラダ」

★サブ展示

「みんなでSDGs」



最近よく聞くようになったSDGsという言葉、皆さんどれだけご存じですか。これはみんながこの地球で暮らし続けるために達成すべき17の目標を定めたものです。身近なところから取り組みしてみましよう。

●サブ展示図書(抜粋)

- 「教科で学ぶSDGs学」「WE HAVE A DREAM」
- 「知って話そうニュースの言葉」「こども環境学」
- 「マンガで学ぶSDGs」「プラスチック・フリー生活」

寄贈いただきました



★図書の寄贈

公益財団法人坂本報効会(理事長 坂本嘉廣氏)から図書を寄贈していただきました。

ありがとうございました。

「小川未明新収童話集」や児童向けの「スーパービジュアル恐竜図鑑」など合計138冊。

新着コーナーや各分類の棚へ配架となりますので、ぜひ手に取ってみてください。

読んでみませんか？

-新着図書のご案内-

(一般)

奇跡集

小野寺史宜 著
集英社

同じ電車の車両に居合わせた男女7人が、思わぬ形で繋ぐ小さな奇跡。

第1話は「青戸条哉」の奇跡。過去最大の腹痛に耐えていた青戸は途中下車もできず、その場にしゃがもうとした。しかしその瞬間、となりにいた女性がわずかに早くしゃがみこんだ！青戸とその女性に起きた奇跡とは？

小さなミラクルを描く、連作短編小説となっています。

(児童)

寝るのが楽しくなる睡眠のひみつ

ヴィッキー・ウッドゲート 文と絵
創元社

ぐっすりよく眠れた朝は自然と目が覚めて疲れが取れていたり、気分がすっきりしていたりしますね。それはなぜなのでしょう？また、なぜ夢をみたりするのでしょうか？そんな睡眠の不思議や謎をイラストたっぷりでわかりやすく紹介。他にも、動物や植物の眠り、神話や伝説・歴史、よい眠りのための方法など睡眠に関するいろいろな情報が満載！

これからの時期、暑くて寝苦しい時もあります。これを読めば寝るのが待ち遠しくなりますよ！

(一般)

J A全農広報部にきいた 世界一おいしい野菜の食べ方

J A全農広報部 監修
KADOKAWA

野菜は食べたいけれど、調理法に悩んだり、使い切れずに廃棄してしまったことはありませんか？この本は、野菜のプロが教える保存法や旬の時期、料理のプロが教えるレシピやコツ等、野菜がどんどん食べたいくなる内容となっています。食への愛とこだわりがたくさん詰まった、野菜が苦手な方にもぜひ読んで欲しい一冊です。

(児童)

世界の市場

マリヤ・バーハレワ 文
アンナ デスニツカヤ 絵
河出書房新社

1年間を通して、世界12か国24の町の市場を訪ねる。市場には野菜や肉・魚、果物や花など生活を彩るたくさんの様々なものが売られています。

ページをめくるたびに遊び心やワクワクする工夫が盛り沢山！まるでその街の市場で買い物をしているような気分になれる絵本です。

※本の紹介文は、スタッフが作成しています。

「自分の現実とは・・・？」 山下量子

先日、ある本を読んでいて、「現実の定義」が書かれていた。それを読んで考えさせられた。そこに書かれていた現実の定義とは、「直接、五感で感じたもの」である。

五感とは、視覚、聴覚、触覚、味覚、嗅覚で、つまり「見る・聞く・触る・味わう・匂う」で、その感覚のためには、目、耳、皮膚、舌、鼻が必要である。これらの身体の感覚器官を使っていないものは、「直接感覚」とは言わず「間接感覚」であり、テレビなどを通したニュースなどは直接的な現実とは言わないというのだ。

私は、持ち家の近所が火事になったことがあるので、五感をともなったその時の体験を今でもはっきりと覚えている。

目の前で燃えさかる火。パチパチという音。燃えたものが灰になり、空中を舞い、私の肌にくっついたり、口に入る感覚。その味。肺に入ってくる熱気。それ以上近づくと身体が火傷しそうな程の熱さ。喉の渇き。煙の匂い。心臓が恐怖でドクドクという音。

確かにそれは「現実」だった。

ニュースで見る火事は、今起こっている現実であったとしても、「自分の現実」とは違う。自分が体験していないのだから。

そもそもニュースは過去の映像が多いから、どんなに臨場感がたっぷりでも「今、自分の目の前で起こっていること」とも違う。映画やテレビドラマも同じく。

そう考えるとなんだか怖くなってきた。

なぜなら私は日頃からオンラインのデジタルの世界にどっぷりだからだ。

コロナ禍の中、私の生活はパソコンをいじるウエイトが多くなった。

コロナ禍で一気に普及したZOOM（ズーム）というソフトを使ったオンラインミーティング。オンラインセミナー。NETFLIXなどのオンライン動画サイト。こうしたオンライン動画サイトの番組は、日本だけにとどまらず韓ドラやハリウッドや、ディズニーや何千、いや何万というタイトルが、リモコン一つで見られる。

どれも面白くて、シリーズものなどにハマってしまうと、家族との会話もおざなりになって、何時間も画面に見入ってしまう。

つまり私は、パソコンやテレビの画面ばかりを見ていて、私の頭の中のほとんどは、いつも自分の体験していることではない事が頭を占め

ている。ある意味、私は空想を生きている。ある意味、私は過去を生きている。ある意味、私はバーチャルを生きている。それは「生きている」と言えるのだろうか？と。

テレビやパソコンやスマホの画面から、世界や日本のニュースを見ているだけの私の状況は身体は元気なのに、身体をほとんど使っていない。使っているのは、せいぜい画面を見る目と耳だけだ。

一方、アフリカやアマゾンの奥地で動物を狩る民族などは、広範囲に目をつかって、奥行きや空間も読み取りながら、全身全霊をこめて獲物をしとめるだろう。そんな目の使い方と私の目の使い方は全く違う。私のような生活だと目の機能は退化するんじゃないか、とさえ思った。

そう感じた時に、五感を使う「体験」がどれだけ大事なのかと感じた。五感を伴うと身体が痛むこともある。感情がわくこともある。けれど新たな発見があったりして、それが「体験」となり「経験」となり「成長」に繋がる。

テレビなどの画面の世界は、「知識」や「情報」や「刺激」にはなっても、「成長」にはならないのでは無いか。そう思った。

これは子ども達にも言えると思う。

ゲームの画面に見入って、ゲーム内で友達と交流するよりも、実際に向かい合って、友達と会うことの大切さ。話すことの大切さ。そこで湧く感情を感じる。そこで感じたことを口に出して表現するという。相手に口で表現してもらおうということ。空間と時間を一緒に過ごすということ。

そうしたことをするから、人の痛みを分かるようになっていたり、誰かに共感することが出来るようになるのではないかと？

家族との時間もそうだ。食事や会話を家族とともにできるということ。その肉体があること。命があること。目の前の命と交流が出来ること。

それがどれだけ豊かで、どれだけ尊いことなのか。

コロナ禍で何もかもがデジタルに進む世界で、私達は今一度、自分の現実との向かい方を見なおすべきなんじゃないか。そう感じた。

～新着図書のご紹介～

一般図書



- 0 「稀書探訪」 鹿島茂
- 1 『リラックマの「ごゆるり」セルフケア』 根本裕幸
- 2 「アウシュヴィッツのお針子」
ルーシー・アドリントン
- 3 「ジェイソン流お金の増やし方」
厚切りジェイソン
- 3 「日本水引」 長浦ちえ
- 4 「アトピーっ子の安心ごはん」 渡辺雅美
- 4 「和ハーブのある暮らし」 平川美鶴
- 5 「自転車のある情景展」 徳島県立近代美術館
- 6 「子育て世代のための快適移住マニュアル」
金丸知弘
- 7 「超ゼロからはじめる釣り入門」 西野弘章
- 7 「花と器の素敵な合わせ方」 小川典子
- 8 「推したい私の韓国語」 イ・ダヒ
- 9 「私と街たち〈ほぼ自伝〉」 吉本ばなな
- 9 「とあるひととき」 三浦しをん
- 9 「朽ちゆく庭」 伊岡瞬
- 9 「広重ぶるう」 梶よう子
- 9 「ナイトシフト」 香納諒一
- 9 「よろずを引くもの」 西條奈加
- 9 「棘の家」 中山七里
- 9 「土佐くろしお鉄道殺人事件」 西村京太郎

※左側の数字は図書の分類を表しています。

0...総記、1...哲学、2...歴史、3...社会科学、4...自然科学
5...技術、6...産業、7...芸術、8...言語、9...文学

児童図書



- 「ブラックホールってなんだろう？」 嶺重慎
- 「貝のふしぎ発見記」 武田晋一
- 「寝るのが楽しくなる睡眠のひみつ」
ヴィッキー・ウッドゲート
- 「はたらく細胞ワクチン&おクスリ図鑑」 講談社
- 「15才までに覚えたい言葉2000」 高濱正伸
- 「シャンシャン、夏だより」 浅野竜
- 「たぶんみんなは知らないこと」 福田隆浩
- 「あそび室の日曜日」 村上しいこ
- 「黄色い竜」 村上康成
- 「生まれかわりのポオ」 森絵都

絵本



- 「いい一日ってなあに？」 ミーシャ・アーチャー
- 「あまやどりのホットケーキ」 尾崎潤
- 「たのしいうみのいきものずかん」 今泉忠明
- 「くみたて」 田中達也
- 「きょうは選挙の日。」 塚本やすし
- 「世界の市場」 マリヤ・バーハレワ
- 「おうさまのメロンはどこへいった？」
なかばやしみく
- 「おばけのジョージーたからさがし」
ロバート・ブライト

★このほかにもたくさんの図書が入っております。

図書館ホームページでは、月ごとの新着図書一覧を公開しておりますので、
そちらもぜひご覧ください。

7月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30
31						

8月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
	1	2	3	4	5	6
7	8	9	10	11	12	13
14	15	16	17	18	19	20
21	22	23	24	25	26	27
28	29	30	31			

開館日時 火～金 10:00～18:30 土・日・祝 10:00～18:00

ホームページ <https://www.city.sukumo.kochi.jp/docs-25/p010805.html>

メールアドレス tosyo@city.sukumo.lg.jp

は休館日



【図書館HP】

